

「東日本大震災」被災地の支援について

平成23年7月19日

 **社団法人 日本冷凍空調工業会**

 **(社) 日本冷凍空調設備工業連合会**

冷凍空調機器の安全点検、整備等の支援の実施について

(社)日本冷凍空調工業会と(社)日本冷凍空調設備工業連合会は、共同して東日本大地震の被災地の復興のため、冷凍空調設備の安全点検、整備及びフロン回収について全面支援するための支援チームを立ち上げました。

平成23年3月11日に発生しました「東日本大震災」により、被害を受けられました地域の皆さま、ご家族の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。このたびの未曾有の大地震は、想像を絶する被害となっております。また、今や産業や生活の基盤となっている冷凍空調機器についても多数損傷等の被害を被っていると思われます。

そこで、(社)日本冷凍空調工業会(日冷工)と(社)日本冷凍空調設備工業連合会(日設連)では、共同して損傷、水に浸かった冷凍空調機器の安全点検や整備、フロン回収など、出来る限りの支援を行って行く所存です。

被災地では日冷工、日設連の会員関係者の多くの事業者が人的・物的に多大な被害を被っておりますが、冷凍空調機器を取り扱う業界としての社会的責務と被災地の一日でも早い復興を図るために、全国団体として支援の輪を広げ、支援してまいります。

ご承知のとおり、フロン回収・破壊法においては、地球温暖化防止のため、冷凍空調機器に含まれるフロンガスは、大気に排出せず回収することが義務付けられております。このため、冷凍空調機器からのフロン回収や配管からのフロンの漏えい・大気排出を防止するための応急処置など、両団体が支援チームを立ち上げることになりました。具体的には、現地の状況を踏まえ、行政機関や(社)日本フロン回収事業協議会等の関係機関と緊密な連携を図り、下記の対策を講じてまいります。

1. 一日でも早い復興ため、被災した冷凍空調機器について、稼働できるかの安全確認、点検の支援を行います。
2. 稼働可能である機器については、整備等を行い、機器の復旧を支援します。
3. 修復不可能と判断された機器については、速やかな機器の撤去ができるよう、早急にフロン回収の支援をします。

なお、冷凍空調機器には、フロンやアンモニア等の高圧ガスが冷媒として充てんされており、その取扱いには専門的な知識が必要ですので、安全性を確保できる専門の技術力を有する技術者を派遣します。

社団法人 日本冷凍空調工業会
会長 有馬 秀俊
社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会
会長 神宮 晃

平成23年4月14日、
日冷工・日設連でプレス発表

具体的な支援内容

1. 被災した機器の安全点検（フロンの有無等）支援
2. 被災した機器の復旧支援
3. フロン回収の支援
4. 冷凍・空調機器等の物資支援

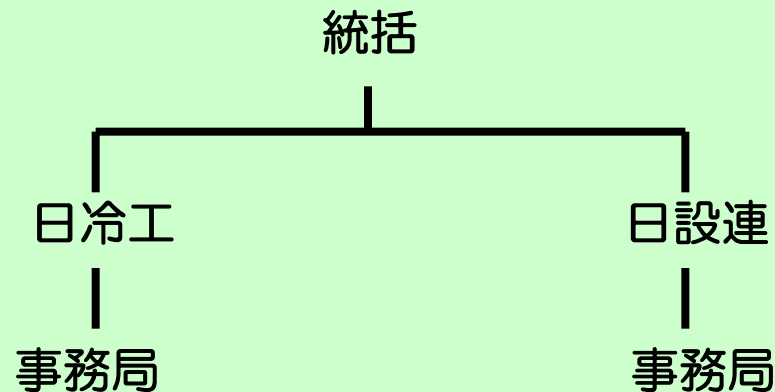
被災地支援スキーム（1）

1. 支援対象地域

- 岩手県・宮城県・福島県
- 支援重点地区として、上記3県の沿岸部被災地で特に災害廃棄物処理があまり進んでいない地区

2. 支援体制

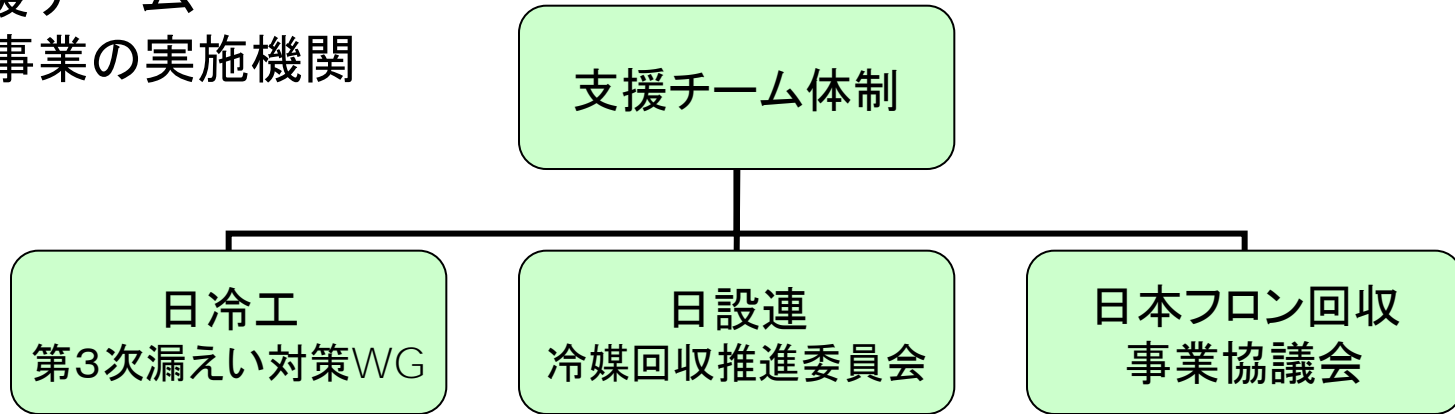
- 本事業の推進に係る関係機関との調整及び支援チームをサポート



被災地支援スキーム（2）

3. 支援チーム

- 本事業の実施機関



〔支援チーム担当区分〕

Aチーム:日冷工・日設連メンバー

- 被災機器の安全確認・点検支援
- 被災機器の整備等、機器の復旧支援

Bチーム:日設連・日フ協メンバー

- 廃棄予定機器からのフロン回収支援

現地視察など

1回目：平成23年4月7日～9日

- ①陸前高田、大船渡、釜石を視察
- ②現地業者(3都市)との意見交換
- ③岩手県冷凍空調設備工業会との意見交換
- ④震災後最大の余震発生で宮城に入れず。

2回目：平成23年5月31日～6月2日

- ①岩手県冷凍空調設備工業会と岩手県庁(総合防災室・環境保全課・水産振興課)と意見交換
- ②宮城県冷凍空調設備工業会と宮城県フロン回収事業協会、宮城県庁(環境生活総務課・廃棄物対策課、消防課・水産振興課)との意見交換
仙台港・多賀城市を視察
- ③福島県冷凍空調設備工業会と福島県フロン回収事業協会、福島県庁(水・大気環境課、廃棄物対策課、消防保全課)との意見交換

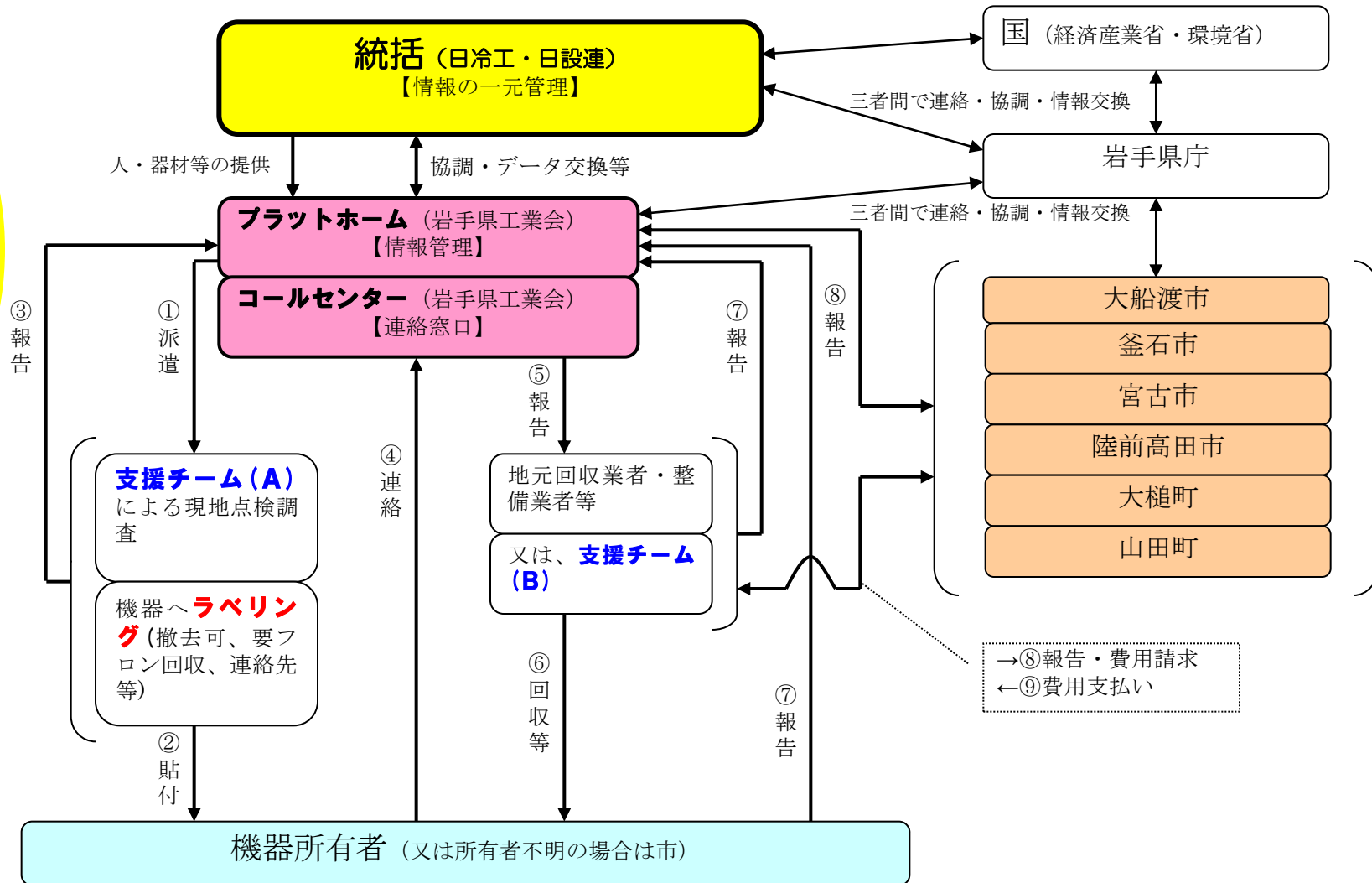
3回目：平成23年6月29日

- ①岩手県冷凍空調設備工業会と意見交換
- ②宮城県冷凍空調設備工業会と意見交換
- ③福島県冷凍空調設備工業会と意見交換

4回目：平成23年7月7日～9日

- ①宮古市、釜石市、大槌町と意見交換
- ②現地支援チームと同行、現地点検調査実施

岩手県における実施体制（1）



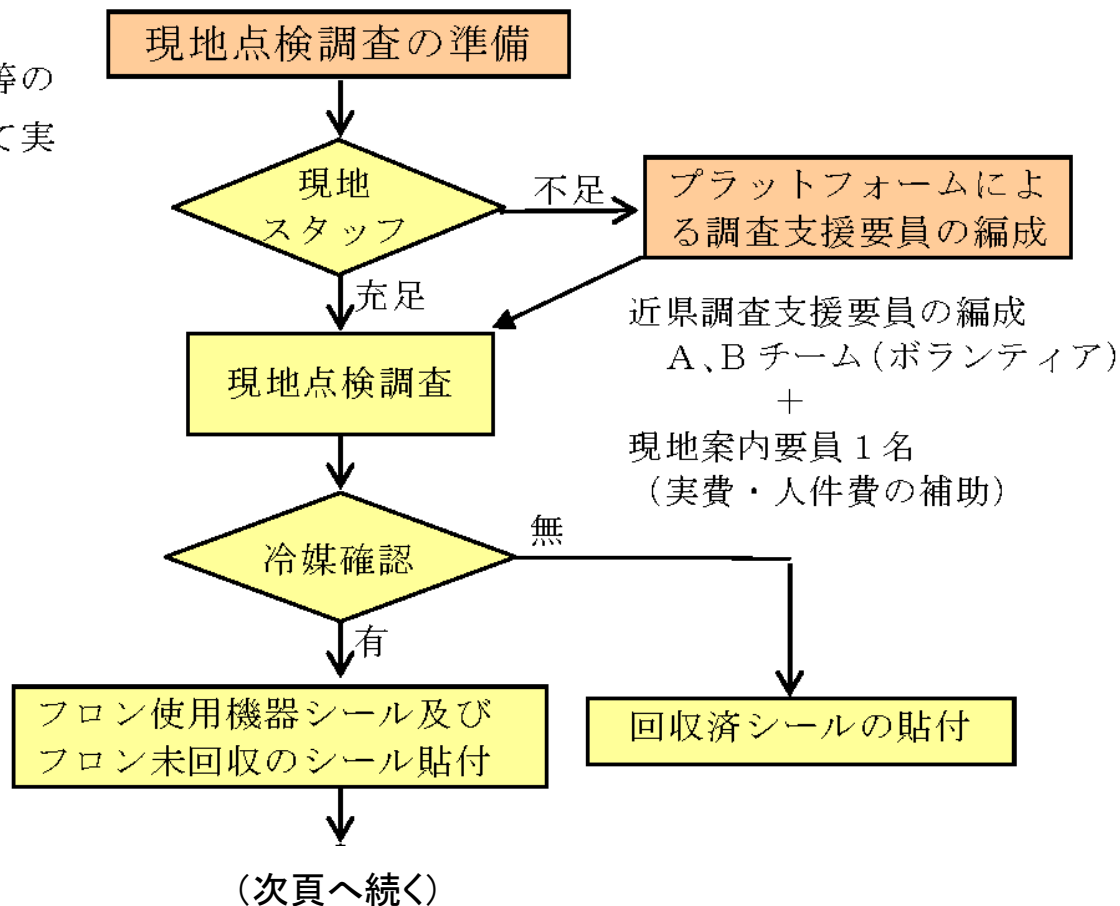
岩手県における実施体制（2）

- (1) 統括は、日冷工、日設連で運営する。
- (2) 岩手県冷凍空調設備工業会が主体となり、統括と一体となってプラットフォームとコールセンターを運営する。運営にあたっては、統括において人・器材を準備する。
- (3) 支援チーム（A）が現地に入り、半壊、一部損壊の建物内の冷凍空調機器について点検調査を行う。
- (4) 支援チーム（A）は、現地業者を派遣、被害の大きく、災害廃棄物処理が遅れている大船渡市、釜石市、宮古市、陸前高田市の4市を集中的に調査を行う。
- (5) 点検調査の結果、「使用不能としてそのまま撤去可」、「フロン回収して撤去」、「使用可」かを判別し、その結果と連絡先（コールセンター）を明記したシールを、所有者や撤去業者が判るように調査対象機器に貼付し、プラットフォームに機器情報を報告する。
- (6) シールを見た所有者（撤去業者）は、コールセンターに連絡、「撤去した」か「フロン回収を依頼する」か「使用し続ける」かを報告する。
- (7) 「フロン回収依頼」であれば、プラットフォーム・コールセンターより、地元回収業者に連絡してフロン回収を行う。地元回収業者が行けないようであれば、統括より支援チーム（B）を派遣し、回収にあたる。
- (8) 回収結果を所有者、回収業者それぞれがプラットフォーム・コールセンターに報告する。
- (9) プラットホームは、その情報を地元の市と統括へ連絡する。（統括で一元管理する）
- (10) 回収業者は、地元の市へ回収費用の請求を行う。

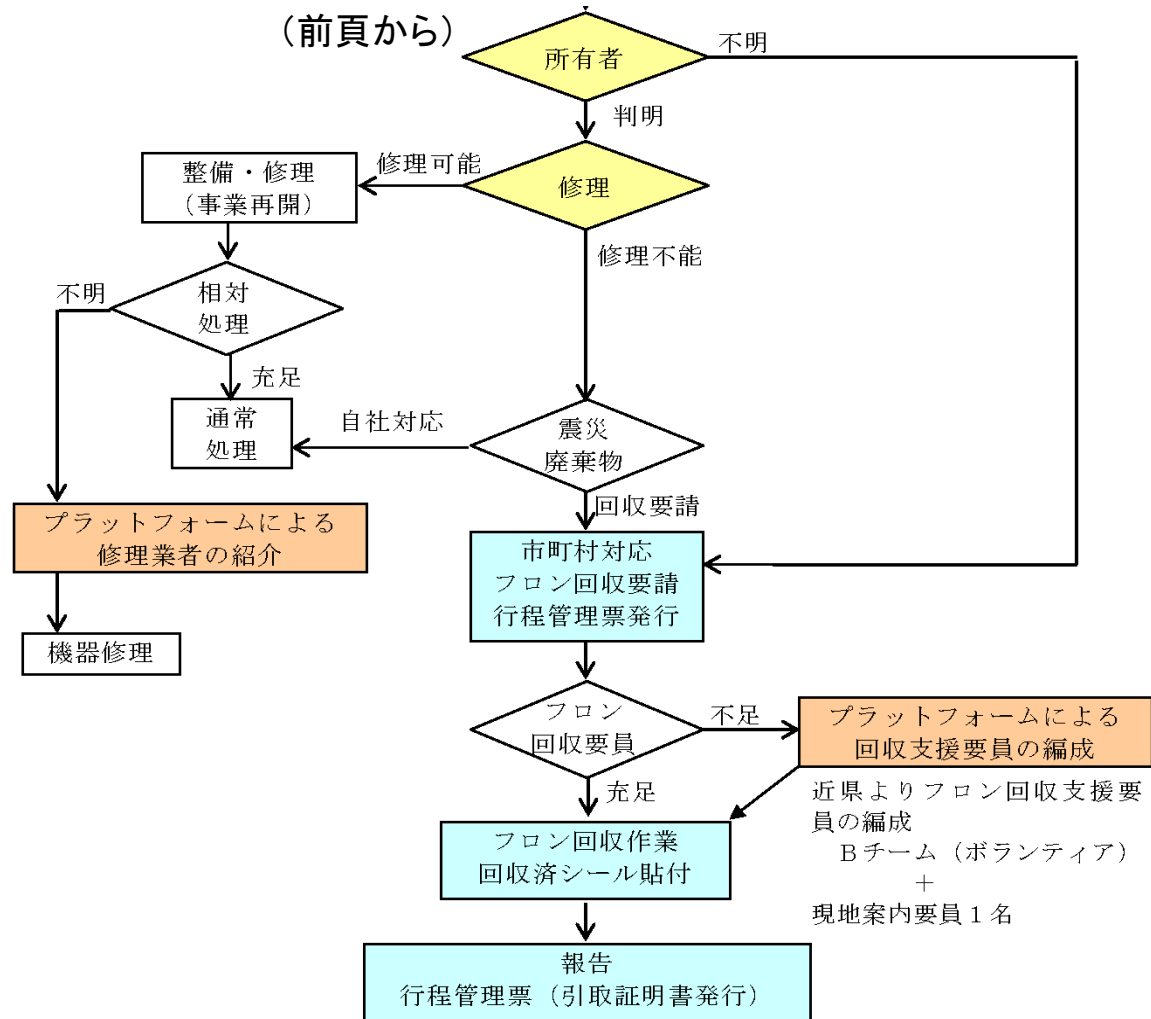
判断場面フロー図 (1)

● 支援チームが現地で点検調査等を行う作業の判断フロー図を下記に示します。

※ 本事業は、中小企業等の所有製品を対象として実施する。



判断場面フロー図 (2)



現地点検調査について（1）

冷凍空調機器調査票（案）			
管理番号	12345	調査日	7月 27日
施設所有者	経済環境建物（株）		
施設名称	経済環境ビル		
施設郵便番号	105-0011	GPS値 (携帯より取得)	北緯 35.659737 東経 139.745278
施設所在地	岩手県釜石市芝公園3-5-8		
連絡先電話番号	019-435-9411	調査責任者	調査 隊一
施設責任者	岩手 一朗		
該当する番号を○で囲む			
機器メーカ	日菱電機	機器の型式	ABC-654321
機器の種類	1. パッケージ 2. ショーケース 3. 小型チラー 4. 大型チラー 5. ビルマルチ 6. 冷蔵・冷凍 7. その他()		
冷媒の種類	CFC 1. R11 2. R12 3. R502 4. その他()		
	HCFC 5. R22 6. R123 7. その他()		
	HFC 8. R134a 9. R404A 10. R407C 11. R410A 12. 他()		
冷媒の有無	1. 有 2. 無		
冷媒推定量	不明	12.8	kg
貼付シール	1. 未回収シール 2. フロン使用機器シール 3. フロン回収済シール		
コメント			
写真1	写真2		
岩手県フロン調査チーム 岩手県環境保全課 岩手県冷凍空調設備工業会 日本冷凍空調設備工業連合会 日本冷凍空調工業会			

調査票を作成し、調査結果を管理する

- 現地点検調査の際、この調査票に調査結果を記入
- 調査結果をプラットフォームにてデータ入力し、データベースを作成
- 以後、プラットフォームと統括でデータを共有

現地点検調査について（2）

調査結果シールを貼付



フロン回収の連絡先
岩手県冷凍空調設備工業会
電話 019-632-6850
管理番号 I-0000

左のシールと共に、機器にこのシールを貼付し、フロンを回収する場合の連絡先を判るようにする。

フロン回収推進産業協議会から3千枚無償提供

現地点検調査について（3）



- 支援チームは、統一した色のベストを身につけ調査を行い、県と協調して実施していることを判るように明記している。

岩手県フロン調査チーム

岩手県環境保全課
岩手県冷凍空調設備工業会
日本冷凍空調設備工業連合会
日本冷凍空調工業会

現地点検調査写真

(宮古市内)



● 支援チーム(A)による点検調査

被災地写真（1）（陸前高田）

ほぼ全壊。建物があっても中は何も無い状態。（4月7日撮影）



（建物は何も無い）



（根こそぎ津波にさらわれた）



（最上階まで津波。中は空）



（「酔仙」の酒蔵。壊滅）



（コンビニも壊滅）



（津波の境界線）

被災地写真（2）（釜石）

ある程度建物が残っている。（4月7日撮影）



（がれきの山だが、建物は一部残っている）



（コンビニ。中は空）



（機器を一部引き上げたが、配管はぶち切れ、フロンは入っていない）



被災地写真（3）（仙台港付近）

配管がつながっている状態のものもある。（6月1日撮影）



（流通ターミナル：室外機は押し潰され、室内機も天井から垂れ下がる）



（事務所：室外機、室内機の配管は残る）